

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

がん研有明病院胃腸外科・食道外科での国内外科研修を終えて

千葉県がんセンター食道・胃腸外科

桑山 直樹

この度、日本臨床外科学会の国内外科研修制度により、がん研究会有明病院で令和5年1月16日から1月29日までの2週間の期間で施設研修をさせていただきました。非常に緊張した状態で初日を迎えましたが、スタッフの先生方、レジデントの先生方やコメディカルの方々まで非常に温かく迎え入れていただき、初日から安心して研修することができました。心より感謝申し上げます。2週間のうち、はじめの1週間を胃外科、後半の1週間を食道外科で研修させていただきました。胃外科では、手術見学を中心に、各種カンファレンスへの参加や、レジデントの先生方の研修や業務についても見学させていただきました。まず、1週間の手術件数に圧倒されました。私が研修した週は12件の胃癌症例が予定され、多い日には1日にロボット手術2件、腹腔鏡下胃切除2件と、合計4件も手術が行われている日もありました。ロボット手術は早期胃癌から高度の進行胃癌まで、短い時間で美しい手術が行われており、大変感銘をうけました。腹腔鏡手術は主にレジデントの先生方が執刀されていました。とても穏やかな雰囲気の中で、てきぱきと模範的で非常に綺麗な手術が行われており、近い世代の先生の手術を見学でき大変刺激になりました。また、実際にレジデントの先生がスタッフの先生に指導されている内容を聞くことができ、教育面でも質の高い手術が徹底されていると感じました。後半は食道外科で研修させていただきました。こちら国内屈指の手術件数であり、胸腔鏡下食道切除、ロボット支援下食道切除を見学させていただきました。胸腔鏡手術は2例とも、レジデントの先生が滞りなく執刀を完遂されており、衝撃をうけました。手術日でない日には、スタッフの先生と手術動画を供覧しながら、手術手技や解剖についての勉強会も行われており、食道外科としてハードな生活を送る中でも、切磋琢磨しチーム全体でレベルアップを目指す姿勢は大変勉強になるものでした。また、食道外科・胃外科・大腸外科・肝胆膵外科合同のカンファレンスも週に2回行われていました。レジデントの先生方はスライドを準備し手術症例を英語で流暢にプレゼンされ、様々な質問に対してもしっかりと返答されていました。日々忙しい業務の中で、1症例1症例に対し深く考え、真摯に取り組むことの重要性を再認識させられました。全体を通して、診療レベル、症例数、次世代の教育などすべての面においてトップレベルの施設であり、2週間も研修に参加させていただけたことは本当に貴重な経験であり、このような機会をいただけたことは大変幸運でした。今回の経験を、今後の自分自身のスキルアップに加え、チームとしてよりよい診療科を目指し、日々の外科診療に活かして参りたいと思います。最後になりましたが、このような機会を与えていただきました日本臨床外科学会の万代恭嗣会長、国内外科研修委員会の高山忠利委員長をはじめとした臨床外科学会役員・委員の皆様にご挨拶申し上げます。また、非常にご多忙の中、私の研修を温かく迎え入れて下さった、がん研究会有明病院食道外科・胃外科のスタッフの先生方、レジデントの先生方に心より感謝申し上げます。また、本研修に私をご推薦いただきました鍋谷圭宏先生、私を快く研修に送り出して下さった、千葉県がんセンター食道・胃腸外科の皆様がこの場を借りて深く御礼申し上げます。日本臨床外科学会の国内外科研修の報告とさせていただきます。